

手作りヨット海へ

世界一周ヨットマン指導

手作りのヨットで大海原に繰り出し、ものづくりやチームワークの素晴らしさを学ぶ試みを、大阪府堺市の私立精華高校(生徒1066人)が今学期から始めた。1面Evening Clickに写真。自作の小型ヨットで単独世界一周を果たした青木洋さん(54)が指導に当たり、生徒たちのまなざしは輝きを増してきた。ヨットはほぼ完成し、海の日の21日、大阪湾で進水式を行う。ヨットマンの寺西淳校長(63)が、公立高校教諭時代の約30年前、青木さんと知り合った。「夢とロマンと希望を与えるのが学校の役割」と考えた寺西校長は、ヨット作りを大阪府補助金事業「特色、魅力ある学校づくり」に申請、認められた。



青木 洋さん

堺の高校生20人

面引きから始め、使い慣れないのこぎりで手に切り傷を作りながら、放課後の計約50時間をかけて取り組んだ。完成したヨットは長さ3・3メートル、幅約1・5メートルの2人乗り。31日から、青木さんの指導で操船実習を行う。

2年生の鈴木涼太さん(16)は「初めはしんどかったけれど、船の形になるとみんな集中して作るようになった」。1年生の畠中美津子さん(16)は「共同作業を通じて友達がたくさんできた。早く海に乗り出したい気持ちと、本当に大丈夫かなという不安でいっぱいです」と笑顔で話した。青木さんは「生徒たちの目が段々輝いてくるのが分かり、気づいたら予想よりも早く出来た。自分のヨットを海で操るころには、生徒たちはきっとたくましくなっているだろう」と語っている。

図面引きから操船まで

【大島秀利】